

苦小牧市医師会

医 師

宮崎 有広

# 胃内視鏡で治せる胃がん

変わってきた胃がんの治療  
人気アナウンサーの胃がん報道で、胃がんへの関心が一時的にまた、高まっているように思っています。

北海道でのがん死の第一位が胃がんから肺がんに移ったように、日本の胃がんは、死亡率、発生率が少しずつ減少し、いずれ肺がん、大腸がんなどほかのがんに追い越されると予測され

## カメラで取り切れれば手術不要

ています。しかし、進行胃がんを命を落とす方々はまだまだ多く、早期発見の重要性は全く変わっていません。

胃がんの治療は、現在でも手術で取ってしまうのが一番です。しかし、手術は胃を三分の二から全部を取ってしまうので、術後、いくつかの合併症があります。

最近、早期の胃がんを内視鏡

(カメラ)で取ってしまおうという治療法が開発されました。これは胃カメラを使って、胃の中からがんの部分をくりぬくというものです。

どんな胃がんでも胃カメラで取れる訳ではありません。がんが胃の壁の一番浅い「粘膜層」と呼ばれるところまでにとどまっていることが必要で、顕微鏡でみたがん細胞の種類にも制限

があります。これは、カメラでは、胃の外にあるリンパ腺まではとれないので、カメラでとれるがんはリンパ腺に転移している心配がないことが条件だからです。

でも、うまくカメラでがんを取りきれれば、手術は不要で、治療して一週間もすれば、食事も普通にとれます。さらにカメラでがんを取った場合、胃はそ

のまま残るので、手術で胃を切ったときの合併症の心配がなくなります。

カメラで治療できる胃がんは、まったく症状がありません。このようながんは毎年必ず胃の検診(できれば胃カメラで)をやっている人のうちから見つけることが多く、この点からも検診の大切さが分かります。



お問い合わせは、苦小牧市医師会

電話 33-4720へ